

教育目標		「持続可能な開発のための社会づくりの担い手を育てる」 スローガン 「励まし合い、競い合い、高め合い」				
【重点項目】						
1 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒を育成する。						
2 自主・自立的な姿勢や態度を研ぎ、高い志を持って学業のみならず、全てのことに全力を尽くす生徒を育成する。						
3 文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成する。						
4 ユネスコスクールチャレンジ校として、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するとともに地域の方々と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒を育成する。						
部	評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等
総務部	式典などの厳格化と刊行物の充実 学校を取り巻く団体等との関係構築	式典の厳格化と刊行物の充実	・式典において、丁寧な実施計画策定と生徒の式典に対する意識付けの徹底 ・刊行物の企画・編集・校正等の問題点の改善	C	今年度も式典等において、3密を防ぐ為、全生徒・職員が一同に集まり、厳格な雰囲気で開催が出来ず、放送等を用いる形態となった。更なる対応方法を検討する必要がある。	ICT利用等を含めて実施方法についてはより良い方法を模索し、その運用の為の職員養成を行う。
		校務分掌間の連携強化	・校内の組織改革から、校務分掌間の報告・連絡・相談の徹底と連携強化	B	B 会議資料のデータ化と遠隔参加も定着してきた。更にICTを活用した報告・連絡・相談を行い連携強化が必要	各部署からの会議資料の事前配布の徹底を行い、会議時間の短縮化を目指し、先生方の教材研究等に時間を割けるように改善を行う。
		育英会・同窓会・近隣地域等とより良い関係作りに取り組む	・学校を支えている各種団体・組織との連携 ・地域に関わることで、より良い教育環境の構築促進	A	A 育英会との連携強化も進み、同窓会においても様々な新たな組織改良の支援を実施した。	単に本学への協力を要請する事無く、それぞれが持つ課題解決に双方が理解・協力する姿勢を持ち取組む。
教務部	本校の教育目標に基づく教育活動の円滑な運営	新教育課程の編成	・時代のニーズを先取りし、建学の精神や教育目標に沿った本校にふさわしい教育課程の編成	B	B 2022年度(新学習指導要領実施)入学生の教育課程編成を完了することができた。	編成した教育課程の修正や改善について検証する。
		新学習指導要領が求める人材育成を踏まえた授業への改善	・主体的・対話的で深い学びの実現及びESDの視点に立った教育に向けての授業改善 ・上記の実現に向けた校内外での研修の推奨及び情報の共有 ・ICTを活用した授業実践と情報の共有	B	B 教科主任等の本校を代表する教員が県の教育委員会や教科研究会等の主催する研修会に積極的に参加することができた。教員間でICTを活用した授業の見学を実施し、意見交換しながら授業改善を目指すことができた。	教員間で授業改善の取り組みについての情報を共有したり、各教科で相互に助言したりして、校内研修等の充実を図る。
		指導と評価の一体化を目指した評価方法の充実	・学習評価を通じた学習指導の在り方の見直しや個に応じた指導の充実 ・きめの細かな指導の充実や生徒一人一人の学習の確実な定着 ・学習指導要領に示す目標に準拠した評価や観点別学習状況の評価の確立	B	B 観点別学習状況の評価基準を検討し策定することができた。	策定した観点別学習状況評価の基準の修正や改善について検証する。
進路指導部	「進路保証」体制の充実	キャリア教育 6年間/3カ年計画の改定	・「進路シラバス」の策定 ・キャリア教育に関する学年行事の精査 ・各コースのコンセプトに応じた進路行事の策定	B	B コロナ禍により、新規の行事を入れることはできなかった。これにより、授業日数確保のため、当初予定していた計画を大幅に見直すこととなった。	次年度、改めて計画を練り直したい。
		管理体制の強化	・各コースとの連携強化(授業内容や小テスト内容の精査) ・スタサポ分析/模試分析の強化	B	B コロナ禍により、当初予定していた実施時期を変更したり、自宅受験に変更するなどの対応を取った。分析については各教科等で行ったが、全体での校内研修等を実施する機会を持つことはできなかった。	外部講師を招聘するなど、校内研修の機会を充実させたい。
		広報活動の充実	・各種説明会(進路説明会・出願説明会等)の充実 ・保護者向け説明会・講演会の充実	B	B 生徒向け説明会等は、対面・オンラインで何とか滞りなく実施できた。 保護者向け説明会等は、コロナ禍の影響で対面では実施できず、オンラインやオンデマンドでの実施に留まった。	コロナ禍の好転が絶対条件となるが、保護者向けの対面での説明会等の機会を増やし、情報提供を充実させたい。
		数値目標 国公立大9 難関私大50 中堅私大116	・進路実現に向けた取り組みの充実により昨年度実績を超えること(進学補習・特別授業・学内予備校・模試分析会・学習合宿・キャリアガイダンス・土曜プログラム等のフォロー体制の充実)	B	B 国公立大9 難関私大42 中堅私大125 国公立大は筑波大や京都工芸繊維大などの難関大学の合格者が見られたものの、難関私大は減少した。	模試結果の分析を強化し、これまで以上にきめ細かな進路指導を行うと共に、探究活動を活かした総合型選抜などを積極的に受験できる体制を構築する。
生徒指導部	励まし合い、競い合い、高め合う心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援	生徒が自ら自己実現を図っていくための自己指導能力の育成	・時間を守ることに對しての意識付けの徹底 ・理由のない遅刻削減の為、生徒・担任との情報共有 ・生徒会との啓発活動の推進	B	B チャイムスタートは各学年団が主体的に取り組むことで生徒に浸透できた。新型コロナウイルス感染予防の為、遅刻の指導に関しては配慮を要した。	新しい生活様式の中での時間を守ることに對しての意識付けを徹底する。理由のない遅刻削減の為、生徒・担任に情報を提供し、生徒会と共に啓発活動を行う。
		生徒の夢の実現を支援するために、生徒が安心してよりよい学校生活を送れるようなサポート体制の充実	・学校全体での登下校指導体制の構築 ・多様化する生徒に對応できる力を養う研修会の企画検討 ・情報モラルの醸成を図るための定期的な啓発	B	B 登下校、電車内のマナーに関する苦情があった。(コロナ関係も)外部機関による情報モラル講演会を実施することができたが、SNSのトラブルが散見された。	学校全体での登下校指導体制の構築を図る。多様化する生徒に對応できる力を養う研修会を企画検討する。情報モラルの醸成を図るために定期的な啓発を行う。
		不易と流行を常に意識し、新たな知見を取り入れ、生徒一人一人をしっかりと見つけ、生徒の意欲喚起の促進	・主体的に学校生活のルールを考えられる体制の構築 ・保護者の意見を集約できる機会の拡大 ・自治会や地域行政と積極的な連携 ・様々なニーズに応じたボランティア活動の推進	B	B 生徒会が中心となり服装規定を新しく定めようと主体的に活動した。地域との連携は、新型コロナウイルス感染予防の為行うことができなかった。	生徒が主体的に学校生活のルールを考えられる体制を構築する。保護者の意見を集約できる機会を拡大する。自治会や地域行政と積極的につながり、様々なニーズに応じた現地以外でのボランティア活動を推進していく。
		生徒が主体となった生徒会活動の実施	・生徒会・委員会が主体的に行事等を行えるような体制の構築(新しい生活様式を考慮) ・生徒会委員会活動の更なる活性化の推進	B	B 重慶祭は規模の縮小、時期の変更等があったが無事終えることができた。生徒会活動に関しては、少しずつ活性化が進んでいる。	新しい生活様式の中での生徒会・委員会が主体的に行事等を行えるような体制を構築する。また、生徒会委員会活動の更なる活性化を図る。
国際文化部	自分とは異なる価値観を受け入れ理解しようとする心を育む教育活動の実現と関連部署との連携	グローバル教育事業の推進	・国内外の他校と交流事業の実施 ・教職員・保護者・生徒に向けた講演会や研修の実施 ・多様な文化的背景を持つ本校入学生の受け入れ体制の検討 ・長短期留学・国内研修や海外研修の充実 ・海外連携校・姉妹校の拡大 ・アジア圏の留学生の受け入れ開始	A	A ・オンライン交流でオーストラリア・台湾・韓国の生徒と交流を持つことが出来た。 ・留学生の受け入れもでき、生徒教員にとって良い経験となった。 ・海外連携校は拡大予定をしている。 ・教職員や保護者・生徒に向けての国際文化的な研修の実施は出来なかった。	○留学生受け入れに関して ・教職員の意識の統一と他コースとの交流を更にしていかなければならない。 ・係教員や留学のクラスのみで終わらせない運営を考へていく。 ・コロナ収束後の国際交流活動をより充実させるために、学園内でのホストファミリー確保に向けた準備を進めていきたい。 ○研修会の実施 ・研修会の実施をするよりも実際に様々な教員や生徒と留学生やオンライン交流に関わってもらうことで知識の幅を広げていきたい
		文化部の活動の促進と学校行事(修学旅行・文化的行事)の充実	・文化部の活動実態の把握と活動の場の拡大 ・重慶祭や修学旅行等の文化的行事の充実と意味付け	B	B ・文化部の発表の機会やクリスマスコンサートの開催等昨年度に比べ生徒が活躍する場所が増えた。 ・重慶祭は制限された中でも生徒は一生懸命に盛り上げた。また文化行事では新たに劇団四季やよしもとを事前学習をおこなった上で鑑賞した。	○文化部の発表の機会 ・学期に1回は発表する場を設けられるように計画する。 ○重慶祭について ・海外との交流・その学びの成果を多くの生徒や保護者に見てもらえるような工夫をする。(内容・成果物の発信方法などの検討)
		図書・芸術教育の促進	・校内アートの充実・図書館および図書利用スペースの更なる充実とその教育的利用方法の検討	B	B ・校内の各所に新聞の閲覧コーナーや図書スペースを拡大した。芸術の授業の作品も廊下に展示するなど昨年度よりも充実させることができた。	○図書室利用の充実について ・図書室の本の閲覧を気軽にできるように校舎の各所に閲覧可能エリアを拡大し、図書委員会の活躍の場を広げ、本への興味を持ってもらう活動を考へていく。図書館やジャパナレッジの活用事例を蓄積し、教職員が参照できるものを考へていく。 ○卒業文集の発行について ・卒業文集「すみれ」「さお鹿」は内容を検討し、その充実を図る。また、発行については誤謬の無いよう、複数人での校正を行う。
保健安全部	自他の生命を尊重し思いやりのある心の醸成と、自己実現に向けて努力する生徒の育成とその支援	生徒の実態把握と情報共有に努め、共通理解をもって生徒の心に寄り添った指導の展開	・教育相談・保健指導および職員研修の充実 ・迅速かつ正確な情報共有	B	B 定期的な保健便りに時期ごとの話題を掲載し健康管理の啓発を行ってきた。教育相談において、月々の報告を管理職も含め迅速に共有できている。担任・カウンセラー・コーディネーターの連携も取れている。	継続して、家庭との連携や教員間での情報共有を回り、対応していく。
		環境整備の徹底と美化意識の醸成、並びに組織的な学校安全・防犯・防災体制の確立	・清掃活動の充実と環境美化の徹底 ・避難訓練や防災HRを通して正しい状況判断ができる力を付けさせるとともに、ワークシート等での振り返り。	B	B 清掃に對して責任もって取り組む生徒は多いが、日常での美化意識については個々に差がある。防犯講習や避難訓練は慎重に時期を選び実施した。コロナ禍であっても、不測の事態に對応できる訓練・準備は必要である。	環境美化や身の回りの整理整頓につながるよう啓発を続けていく。防災に関する視聴覚教材の充実。時期や社会情勢に沿った安全教育の実施。
		生徒の主体性を引き出し、学校生活の活性化を図る	・生徒会を中心とした生徒が主体的に取り組む体育行事の開催 ・運動部の活性化(キャプテン・クラブ顧問者会議等)を通して活力ある学校生活の推進	B	B 本年度も中止せざるを得なかった体育行事もあったが、形を変えてでも実施できたものもありよかった。部活動では活動方法が制限される中、様々な工夫をし活動する各運動部の努力が見られた。	コロナ禍であっても、時期や感染症の蔓延状況を十分に考慮しながら、生徒の学校生活が充実したものになるよう、行事の実施形態を検討していく。
入試広報部	・命の教育・ESD教育・ユネスコ認定という3本柱の具現化 ・中高共に、定員確保の常態化 ・安心安全信頼される広報をモットーに専願率100%達成	受験生・入学定員の確保	・徹底した塾訪問・中学校訪問の実践と外部への発信強化	B	B コロナ禍により、オンラインを併用しながらの実施	訪問回数(訪問者)の増加とデジタル戦略の強化
		入試広報部内の改革	・責任の所在、部内ガバナンス強化、部内研修の強化	B	B 部内研修が未実施であった。	次年度部内研修を実施する。
		入試改革	・令和という時代に即して、柔軟かつ先駆的な入試の導入検討	A	A 中学SP入試の導入し、高校入試を5教科へ変更した。	次年度も継続、発展させていく。
		各種広報行事の充実	・各種行事でのクレドの理念に則った、品格のある接遇、立ち居振る舞いの推進 ・本校のイメージ戦略の充実による専願者確保	A	A イメージ戦略が専願入学者増につながった。	次年度も継続、発展させていく。